建築計画研究室

Architectural Planning Lab.

朽木 順綱

KUTSUKI, Yoshitsuna / Associate Professor

FUN ―今日、そして明日が楽しくなる物語―

Design of theme park : let's find YOUR ORIGINAL "FUN"

楽しい空間を提案します。
今と今日、そして明日が楽しくなる空間です。

「人生、楽しい時間が多い方がいいな」
と思ったことはないでしょうか。

楽しい時間を過ごすためにはどうすればいいのか
それは「ありのままの自分」を知ることです。
自分は何が好きで、何に興味があって、
どんな人間なのか
知らないことは、出来ません。
自分のことを知らないのに、
楽しいことをするのは難しいということです。

そこで
「ありのままの自分を知るためのきっかけのきっかけ」
をつくる、異なる個性を持つ５つのエリアから
構成される
テーマパークを設計します。

今日は「気になる」を見つけ、
明日は新しいことを始めてください。
その積み重ねが「ありのままの自分」を知るきっかけとなり、「楽しい」時間を多くしてくれるはずです。

家熊 咲希
IEGUMA, Saki

Sense of Wonder ―都市に潜む公園美術館―

Sense of Wonder : Park museum latent in city

Sense of wonderとは、
一定の対象に触れることで受ける
不思議な心理的感覚を
表現する言葉である

この美術館では、
美しいものを美しいと感じる感性
新しいものや未知のものに触れた時の感激
その一つ一つに目を向け、
日常では見落としがちな感覚を拾い上げる

雑多な都市から抜け出し、
日常に潜んだ非日常へと誘う

無数にあるルート、
天候によって変わる景色
地下に差し込む神秘的な光
その中で自分だけの道、居場所を見つけに行く
ここでの感覚の気付きが、小さな幸せへと繋がる

「知る」ことは「感じる」ことの半分も重要ではない

井門 優菜
IDO, Yuna

満ち引きの軌道 ―超高齢化社会問題の解決―

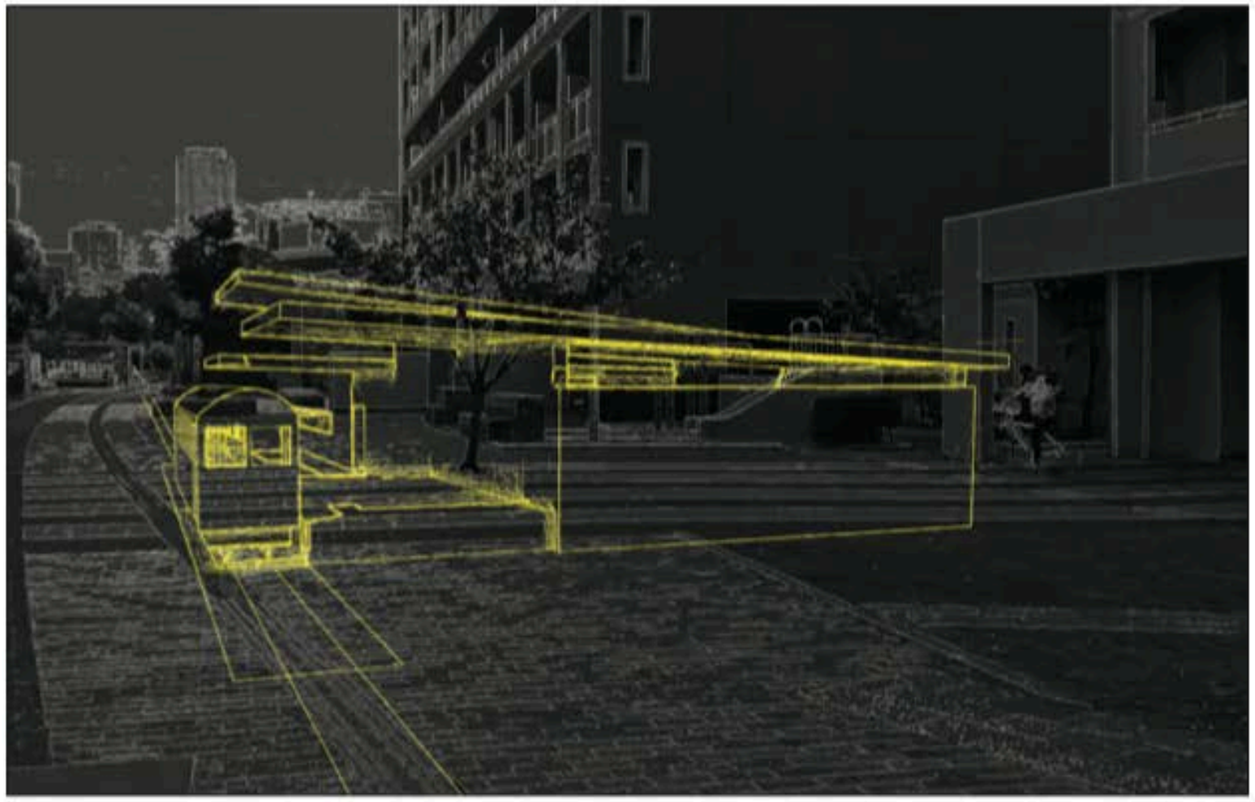
Orbit of ebb and flow : Solving problems in super-aging society

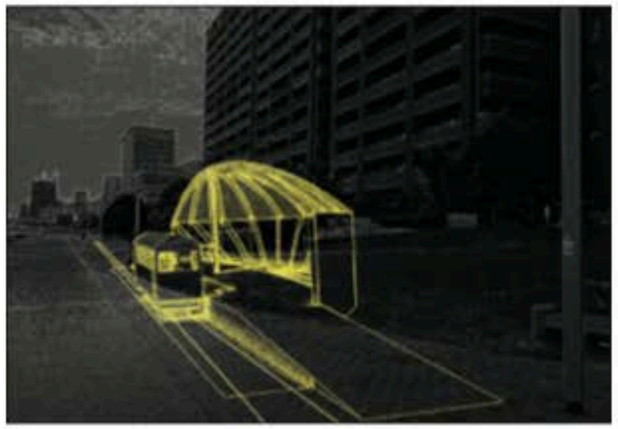
神戸市中央区の脇浜海岸通から麻耶海岸通を横断する街HAT神戸は1995年に起こった阪神淡路大震災、その復興シンボルプロジェクトとして開発された街とされている。HAT神戸には復興住宅が建てられ、震災で家を失った方々がそこに移り住んだ。

あれから26年たった今HAT神戸では超高齢化問題が起きている。

実は今から12年前、私はこの街で暮らしていた。わたしがこの街に住んでいた頃はまだ公園に子供が溢れかえる活気ある街であったが、今は子供の姿はとても少なくなってしまい高齢者が目立つ街へと変化していた。

超高齢化問題になってしまった原因は沢山あるが、私はその中でも暮らしていた頃の実体験も加味し、高齢者が移動しやすいようにこの街の足としての交通機関、路面電車を設置し、またこの街に足りないコミュニティ施設を提案する事によりこの問題解決への糸口になればと思う。

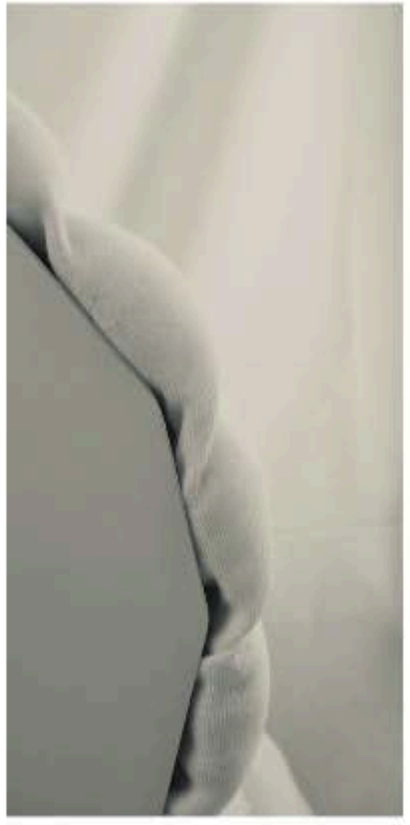


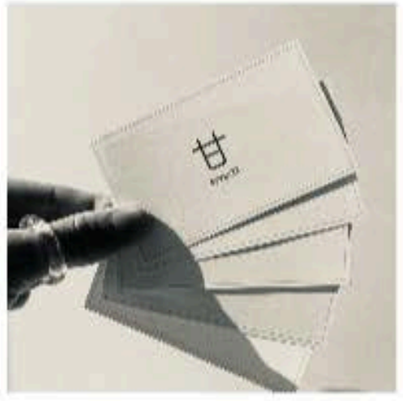


岸崎 将大
KISHIZAKI, Shota

味覚の表現 ―主観の共通性の検証―

Demonstrational experiment of spatial expressions of gustation : Verifying similarities of subjective senses of taste





感覚は人と共有することができない―自分が見ているこの景色は、他の人には違う色合いで見えているかもしれない。自分が聞いたこの音楽は、他の人には違う音色に聞こえているかもしれない。自分が感じ取ったモノやコトは、あくまで自分の中の限りであり、誰かと同じように体感しているかはわからない。

今回の卒業制作では、人間の五感のうちの特に味覚を取り上げ、わたしの主観を元に味の基本と言われる五味（甘味・酸味・塩味・苦味・旨味）のそれぞれを形態や空間構成で表す。五つの空間がそれぞれどの味覚に対応しているかは隠してアンケートを行い、わたしが提示した味覚に対するイメージがどの程度の共通性を持つのかを検証する。

検証の結果、味覚と空間表現の間にある程度の相関性がみられれば、例えば飲食店の内装デザイン、食品のパッケージデザインなどに対して、新たなデザインの手段の提案になるだろう。

酒木 恵梨奈

SAKAKI, Erina

白い便器とユープケッチャ ―伝播する舞台の囃し―

Performing Arts of Abe Kobo's world : Spatial representation of novel's worldview using vacant houses and lands

『なんだここ。』

気がつくと目の前には仮囲いに包まれた家があった。神戸の阪急六甲駅の上側。ここは開発が進む海側と景色が一望できる山側のちょうど真ん中に位置する。言わばどっちつかずのグレーゾーン。

しかし、確かここには空き家があったはず。それに仮囲いというにはあまりにも不格好で、一部が煙突のように伸び、どこか美しさもあった。

「ユープケッチャが…」「ウエーじゃないか!」「この世は棒で溢れていて…」中からは訳の分からない台詞が聞こえてくる。どうやら演劇が繰り広げられているらしい。

『あ、ここにもあった。』

「あったりめえだい。こちとら江戸っ子の…」なるほど。ここでは落語が聞けるらしい。家によって違っているのかもしれない。

『あれ、またあった。』

空き家や空き地のあった場所が昭和文化を楽しむ空間へと変貌を遂げている。演劇の家、落語の家、キネマの家、朗読の家。

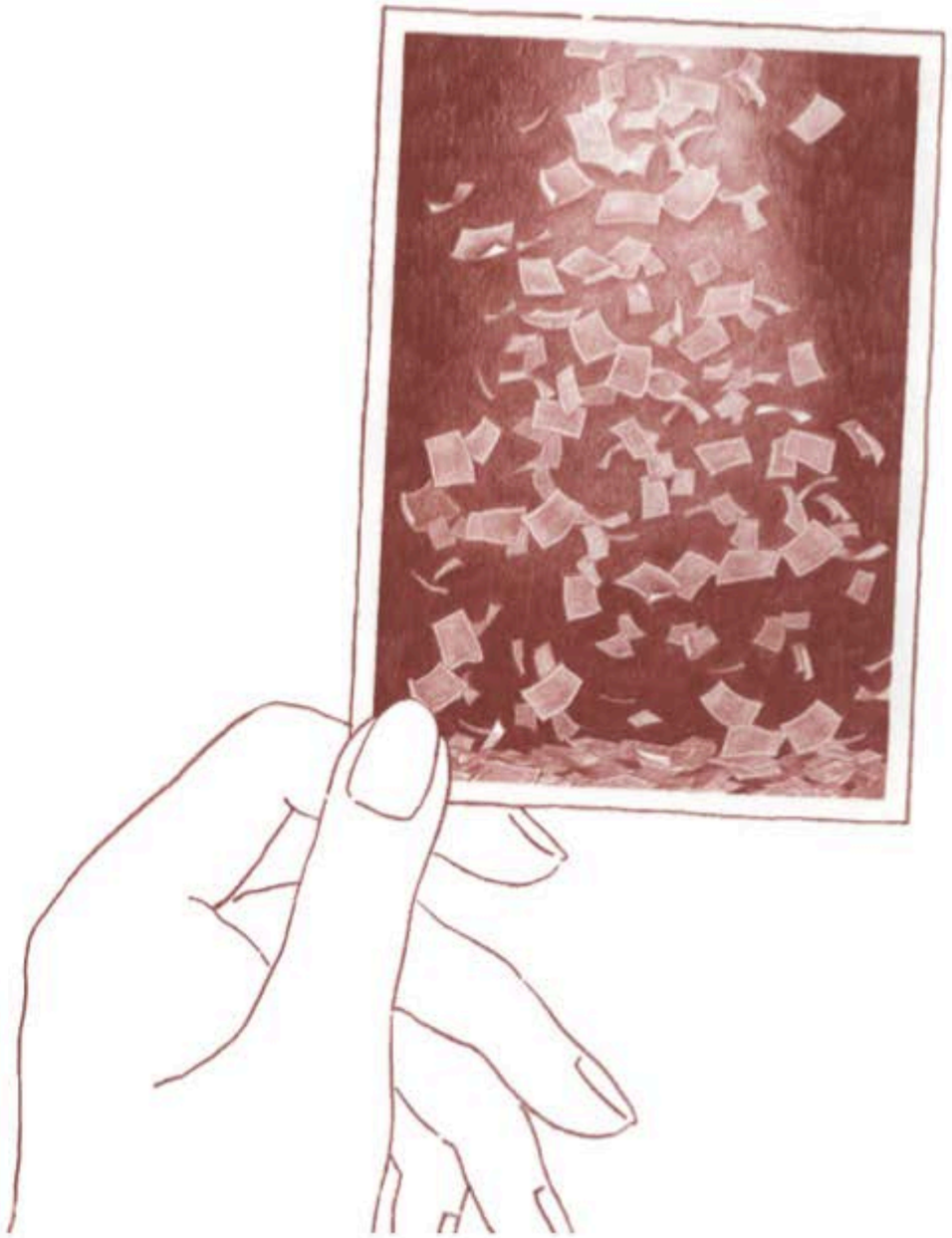
『うわ、ここにもあるぞ・・・』

気がつくと仮囲いの中にいた。

阪田 悠樹
SAKATA, Haruki

せぴあいろの憧憬 ―逢いたい時を想う場所―

Drawings with sense of nostalgia: Landscapes of sometime one misses someone



ここは記憶への入り口

港に浮かぶこの町で記憶のカケラを
拾い集め、旅をする

小さなことも、大きなことも、嬉しいことも
悲しいことも、全てを包み込むこの景色に
心の中で揺れ動くものを重ね合わせる

その瞬間の重なりを大切にすることで
思い出は記憶の中で生きてゆく

どこか切なく儚いこの感情は心を温める

あの日の小さな感動
あの人との何気ない日常、あの時の香り

ここで迷い、彷徨い、巡ることを
繰り返すことで懐かしい記憶に逢いにゆく

戻れない日々を想い出すために、
記憶の中の温もりを
ずっと忘れないために。

夏目 亜利紗
NATSUME, Arisa

新しい常識のワークスタイル

Proposal of work space for activating community in countryside through renovating vacant house

日本が抱える問題はいくつかあるが、そのうちの一つに「空き家問題」がある。そしていま、私の家族でも空き家を抱えていた。それは秋田県五城目町に位置し、超高齢化で日本の未来を先取りしたような場所だ。しかし調査を重ねると、地方創生の兆しがあることや新たな教育方法、『ワークスタイル』を提示できる場所であることが分かった。

そして2020年、新型コロナウイルスが世界を襲った。今後このウイルスとの共生が当たり前になりニューノーマルな生活が予想される中、我々の生活スタイルは大きく変わりつつある。人と人との接触を避けるための時間差通勤やリモートワークなど、今まで「働き方改革」として注目をされていたが、なかなか浸透させることができなかった計画が、このウイルスによって急速にメスが入れられた。

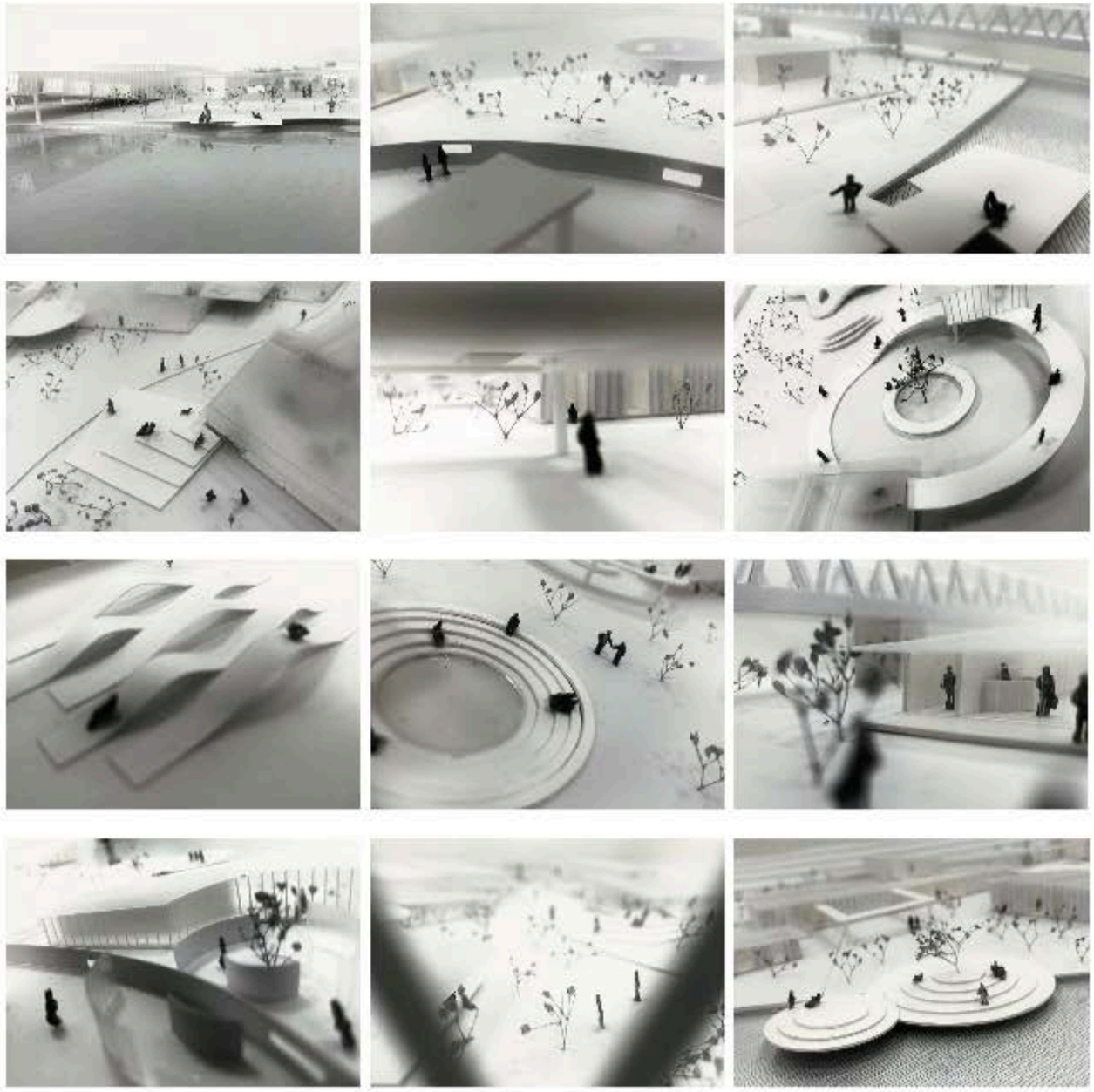
以上から空き家やその周辺地域を活性化させるシステムと新たなワークスタイルを提案する。変わりゆく「普通」をより良く過ごすために。

宮本 燎

MIYAMOTO, Kagari

川と街と人と… ── 都会に寄り添うこれからの宿 ──

Project of micro-tourism connecting river, town, and people :
Accommodation for forthcoming style of tourism in surrounding natural environment coexisting along side urbanity



街を散策している途中にたどり着いた場所。
大阪梅田に程近い都島・毛馬。

川と海がつながる場所に、
自然が造り出した扇状地。
「木立の小道を通り抜けていくと
やがて広い海につながる…。」

空から降り注ぐ暖かな光

肌をかすめる優しい風

風に揺れる木々の緑

川面を輝かせる水のせせらぎ

ふとした瞬間に自然の表情の変化から
時の流れを感じることができたなら…。
ここでの時間が豊かな時間となる。

近場の魅力を再認識し、
日常に彩りを添える宿泊施設を提案する。

都市のすぐそばにある
心落ち着く居場所になるように。

山口 若菜
YAMAGUCHI, Wakana

風を観ていたら、道が生まれた…。 ―都市に共生する風の道―

Urban passages emerging with wind, light and rain : Merging architecture and natural elements

都市を渡る風に乗って、一粒の種が運ばれる。種が落ち、芽を出し、根を張る。枝を伸ばすように都市に絡みつき、花を咲かすように都市に彩りをもたらす。吹き抜ける風、ビルの隙間から抜ける光、街を洗い流す雨は道標となり、太陽に手を伸ばす。新しい生命は都市によって育てられ、都市と共に呼吸をし始める。そして、また新しい風が生まれる。

大阪・梅田の地上はほとんど自動車に奪われており、歩行者の動線は地下やデッキで細分化されている。地上は再び歩行者に取り戻されるべきだ。その第一歩目として歩行者のためのオープンスペースを立体化し、地上の道や広場を繋ぎ、三次元的に拡張する。

これは、都市の価値と都市デザインの新しいカタチのための、ひとつの試みである。

山崎 理子

YAMAZAKI, Riko

ターミナルシネマ

Proposal of new facility for enhancing movie experience by hospitality and affinity

忙しなく生きる現代人へ

便利な社会と引き換えに映画体験は失われつつある。スクリーンで観る以外の選択肢が増え、片手間に視聴できる映画というコンテンツは著しく私物化され、雑に消費されていく。

――ターミナルシネマ。ここは映画の集う出会いと再会の場。とっておきの映画旅へご案内する。フライトまでまだ少し。映画の世界観に身を委ねるまでの少しの時間に少しの手間をかけて欲しい。チケットを買って、荷物を預け、映画愛の溢れるターミナルとラウンジを楽しむだけ。行きは最上階の搭乗エレベーターから地下のシアターへ向かい、上映後は余韻に浸りながら旅から戻るように、行きとは違う風景を辿っていく。こうして体験した映画は人それぞれの形で受け止められ賞味されていく。今日は忙しない日々を忘れ、映画だけに没頭する日。

さあ、映画の世界に旅立つ準備はできているか?

山田 好乃

YAMADA, Yoshino

ツルハシ…紀行空間が生まれる場所 ―マチに育てられながら、まちを味わう―

"TSURUHASHI" where journey starts in ordinary activities : Project of installations for appreciating both town and people

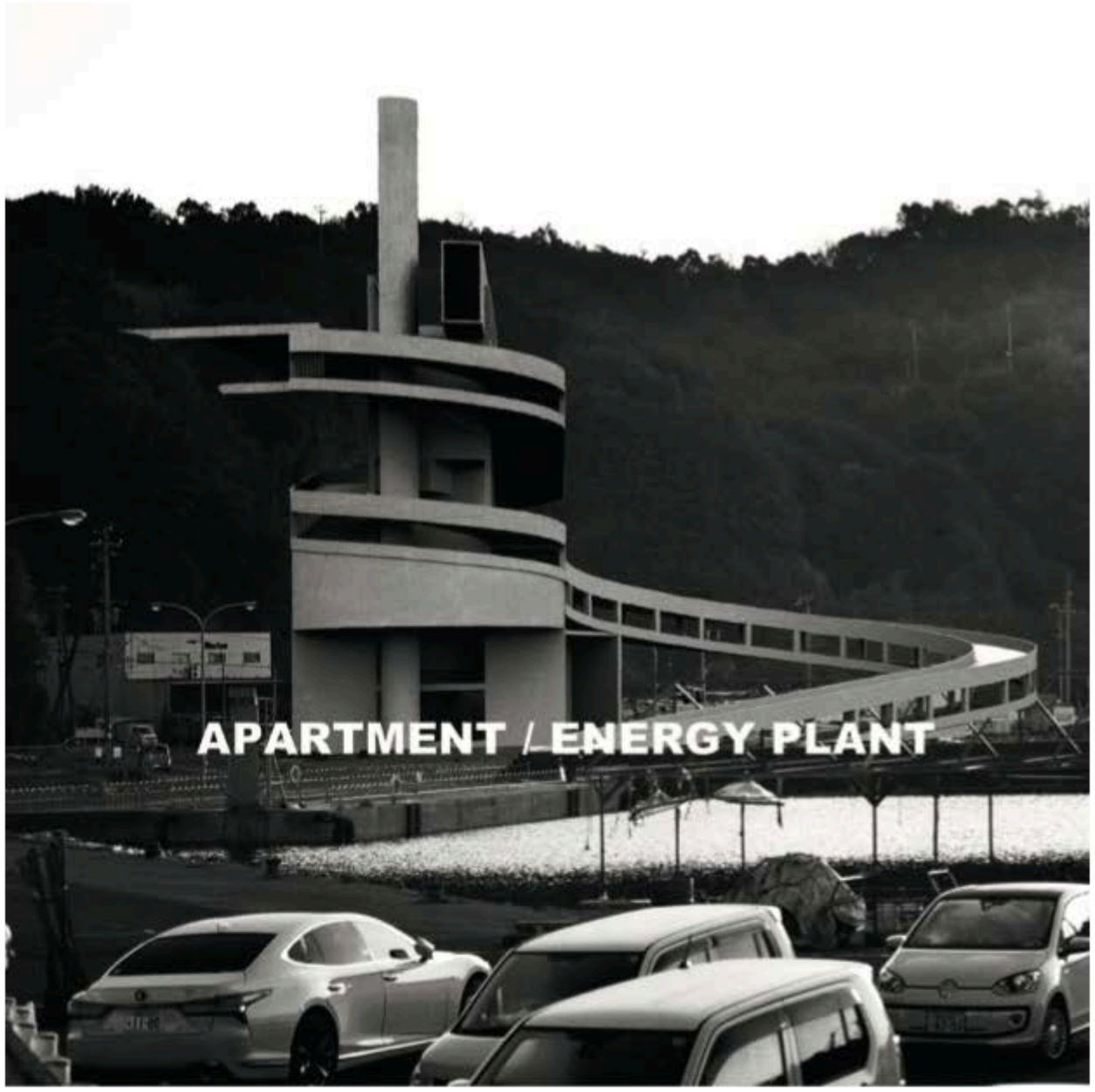
「人影の迷路。」

きっかけは解らない
気がつけばツルハシにいた。
駅からコリアタウン方面
に向かう途中で対面4車線
に面した空き地に傷ついた
ガードレールが積み上げられてあった。
角地に孤立する無惨なガードレールの残骸群は
「このマチの迷いなのか…なんだか寂しいな…。」
「さっき通って来た迷路のような商店街にも
随分と迷わされたが、なんだか温かった…。
あれはポジティブな迷いか…」
アタマに浮かんだ風景は「人影の迷路。」
冷たいアスファルトに落ちるヒトカゲが、
通りすぎる人々へ未来の商店街の風景を想う。

山根 滉平
YAMANE, Kohei

Apartment / Energy Plant

Apartment / Energy Plant : Project of creating synergetic and recycling environment for energy, wastes, region, nature, society and life



地方地域はスポンジ化によりインフラストラクチャーが縮小していくだろう。生活のためのエネルギーは建築物に太陽光パネルなどを取りつけることで自給できる。しかし再生エネルギーは天候などに影響されやすいためエネルギーグリッドを安定させる別の手段が求められる。

生活からでるゴミは現在、1週間程度で回収されているが、人口が減り回収範囲が広くなればその回数も減っていく。紙やＰＥＴは長期保管できるが家庭ゴミの重量比4割程度を占める生ゴミは臭気のため廃棄する必要がある。

本制作では地方都市近郊にアパートメントとメタンガスエネルギープラントのコンプレックスを設計しこの問題を解決する。山裏に広がる町から生ゴミを収集・発酵させ、生成したメタンガスを再生エネルギーとして生活に供給し、残渣を堆肥として農山地へ還す建築物を計画する。

山本 康揮

YAMAMOTO, Koki